

中国思想中国哲学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
中国思想特論Ⅰ	中国仏教史書の研究	2	齋藤 智寛	2学期	木	2	1	中国思想中国哲学特論Ⅰ
中国思想特論Ⅱ	万暦人士における陽明学理解の諸相	2	三浦 秀一	1学期	木	2	2	中国思想中国哲学特論Ⅱ
中国思想特論Ⅲ	『礼記』をめぐる諸問題	2	末永 高康	集中(2学期)			3	中国思想中国哲学特論Ⅲ
中国思想史総合演習Ⅰ	中国思想研究上の諸問題1	2	三浦 秀一、齋藤 智寛	1学期	金	5	4	中国思想中国哲学研究 演習Ⅲ
中国思想史総合演習Ⅱ	中国思想研究上の諸問題2	2	三浦 秀一、齋藤 智寛	2学期	金	5	5	中国思想中国哲学研究 演習Ⅳ
中国思想文献研究演習Ⅰ	『延平答問』精読	2	三浦 秀一	2学期	水	2	6	中国思想中国哲学研究 演習Ⅰ
中国思想文献研究演習Ⅱ	『申鑑』精読	2	齋藤 智寛	1学期	水	2	7	中国思想中国哲学研究 演習Ⅱ

科目名：中国思想特論 I / Chinese Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛（准教授）

講義コード：LM24207， 科目ナンバリング：LGH-PHI610J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 中国思想中国哲学特論 I 】

1. 授業題目：

中国仏教史書の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of Buddhist hagiographies in China

3. 授業の目的と概要：

後漢から五代十国までに活躍した僧侶の伝記を集成した書物として、梁・慧皎『高僧伝』、唐・道宣『続高僧伝』、北宋・贊寧『宋高僧伝』がある。本講義ではこれら三書について、これらに収録された記事を仏教史研究の資料とする視点と、その記事内容や編纂方針を通じてそれぞれの著者の思想や成立時期の思潮をうかがう視点とから考察する。講義では『続高僧伝』をやや詳しく取り上げ、それに前後する『高僧伝』『宋高僧伝』も『続高僧伝』と比較しつつ紹介したい。

4. 学習の到達目標：

三高僧伝の成り立ちと内容を理解し、この種の編纂物を利用した思想史研究の方法を了解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、導入
- 2、慧皎の伝記と『高僧伝』概要
- 3、道宣の伝記
- 4、『続高僧伝』概要
- 5、『続高僧伝』の版本問題
- 6、『続高僧伝』訳経篇の諸問題
- 7、『続高僧伝』義解篇の諸問題
- 8、『続高僧伝』習禅篇の諸問題
- 9、『続高僧伝』明律篇の諸問題
- 10、『続高僧伝』護法篇の諸問題
- 11、『続高僧伝』感通篇～雑科篇の諸問題
- 12、『続高僧伝』に見える三教交渉資料
- 13、『続高僧伝』と初唐の仏学
- 14、贊寧の伝記と『宋高僧伝』概要
- 15、まとめ

6. 成績評価方法：

レポート (100%)

7. 教科書および参考書：

講義中に随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

講義で取り上げた高僧伝類の原典や、紹介された参考書は積極的に読むこと。

9. その他：なし

科目名：中国思想特論Ⅱ／ Chinese Thought (Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：三浦 秀一（教授）

講義コード：LM14205， 科目ナンバリング：LGH-PHI611J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 中国思想中国哲学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

万暦人士における陽明学理解の諸相

2. Course Title (授業題目)：

Several Aspects of Yangming Thought at the Wanli Period

3. 授業の目的と概要：

明朝嘉靖期に王守仁が確立し、その愛弟子たちによって知識人社会に拡がりだし陽明学を、それに続く隆慶・万暦期の人士たちは、どのように受けとめたのか。本講義では、この時期を代表する幾人かの知識人が相互に贈りあった書簡の分析などを手がかりに、この問題の解明をこころみる。

4. 学習の到達目標：

陽明学関連の思想文献について、その表現方法や内容に習熟する。
万暦人士が構想した思想、およびその思想史的位置を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：管志道と鄒元標の往復書簡分析1

第3回：管志道と鄒元標の往復書簡分析2

第4回：管志道と鄒元標の往復書簡分析3

第5回：管志道と鄒元標の往復書簡分析4

第6回：管志道の「泰州学派」批判1

第7回：管志道の「泰州学派」批判2

第8回：鄒元標の陽明学理解1

第9回：鄒元標の陽明学理解2

第10回：中間まとめ

第11回：鄒元標と羅汝芳

第12回：羅汝芳と楊起元

第13回：鄒元標と楊起元

第14回：鄒元標と周汝登

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

レポート (100%)

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考書は授業時間内にも紹介するが、荒木見悟『明末宗教思想研究』（創文社）は必読。

8. 授業時間外学習：

参考書・参考文献として紹介された資料を精読する。とくにそれらが使用した原典に関しては、その文献史料にまで溯り、その内容を自分なりに読み解くことによって、論者の解釈との異同を明確にしておく。

9. その他：なし

特になし。

科目名：中国思想特論Ⅲ／ Chinese Thought (Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期集中 その他 連講

学期：集中(2学期)， 単位数：2

担当教員：末永 高康 (非常勤講師)

講義コード：LM98819， 科目ナンバリング：LGH-PHI612J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 中国思想中国哲学特論Ⅲ】

1. 授業題目：

『礼記』をめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Several problems of the Liji

3. 授業の目的と概要：

『礼記』『大戴礼記』を含む、以下同じ)の諸篇の諸問題について、前世紀後半以来の出土文字資料の知見をふまえて考察していく。

この考察を通じて、出土資料を含む戦国・秦・漢期の文献の取りあつかい方を理解するとともに、当該期の思想史を構成していく手法についての理解を深めることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『礼記』諸篇をめぐる諸問題を中心とした中国古代思想史の諸問題について理解を深めることができる。

新出土資料を含む戦国・秦・漢期の文献の取りあつかい方について理解を深めることができる。

戦国・秦・漢期の思想史を構成する手法について理解を深めることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入—新出土資料出現以前の研究状況と新出土資料出現のインパクト

2. 『子思子』をめぐる諸問題(その一)—『礼記』緇衣篇と楚簡『緇衣』

3. 『子思子』をめぐる諸問題(その二)—『礼記』中庸篇と『性自命出』

4. 『子思子』をめぐる諸問題(その三)—『礼記』坊記篇・表記篇と郭店楚簡

5. 『曾子』をめぐる諸問題(その一)—『大戴礼記』の曾子十篇と『内礼』

6. 『曾子』をめぐる諸問題(その二)—「孝」を主題とする諸篇について

7. 新出土資料と重複する他の諸篇について—『礼記』孔子問居篇、『大戴礼記』武王踐阼篇など

8. 『孔子三朝記』をめぐる諸問題—『大戴礼記』千乘篇等八篇

9. 『礼記』と『儀礼』の「記」(その一)—武威漢簡『儀礼』をめぐる

10. 『礼記』と『儀礼』の「記」(その二)—『礼記』曲礼篇

11. 『礼記』と『儀礼』の「記」(その三)—『礼記』冠義篇以下の六篇

12. 先秦礼文献としての坊記篇—附『礼記』礼運・礼器・郊特牲三篇

13. 変礼をめぐる(その一)—『儀礼』における礼の分岐と『礼記』奔喪篇

14. 変礼をめぐる(その二)—『礼記』檀弓篇と曾子問篇

15. まとめ

方法：講義形式で行うが、演習や討議も取り入れる。受講者はあらかじめ配付された資料等に目を通しておくこと。また、授業で取り上げる諸問題について、討議を行うこともあるので、主体的に参加すること。

6. 成績評価方法：

評価項目としては、授業中に課す課題(20%)、事後に課すレポート(60%)、授業における発言(20%)をもとに、総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は特に使用しない。プリントを配布する。

参考書：『武内義雄全集(第三卷)』角川書店／末永高康『性善説の誕生』創文社

8. 授業時間外学習：

講義で取り扱う『礼記』の諸篇について、訳本によってでかまわないので事前に目を通しておくこと。

事前に配布する講義資料について、一通り目を通しておくこと。

9. その他：なし

特になし。

科目名：中国思想史総合演習 I / History of Chinese Thought(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：三浦 秀一、齋藤 智寛（教授、准教授）

講義コード：LM15501， 科目ナンバリング：LGH-PHI613J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 中国思想中国哲学研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：

中国思想研究上の諸問題 1

2. Course Title (授業題目)：

Major Issues in the Research of Chinese Philosophy 1

3. 授業の目的と概要：

前期での発表や討議にもとづいて、受講者各自が、それぞれの研究テーマにもとづく論文の草稿を作成して発表するとともに、受講者全員が、その発表にもとづいて自由に討論する。

4. 学習の到達目標：

みずからの研究テーマに関連する学術論文を作成するうえで必要な基礎的技術および能力を向上させることができる。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：発表と討議 (1)

第 3 回：発表と討議 (2)

第 4 回：発表と討議 (3)

第 5 回：発表と討議 (4)

第 6 回：発表と討議 (5)

第 7 回：発表と討議 (6)

第 8 回：中間まとめ

第 9 回：発表と討議 (7)

第 10 回：発表と討議 (8)

第 11 回：発表と討議 (9)

第 12 回：発表と討議 (10)

第 13 回：発表と討議 (11)

第 14 回：発表と討議 (12)

第 15 回：まとめ

6. 成績評価方法：

発表内容 (50%)、参加態度 (50%)

7. 教科書および参考書：

教科書はとくにない。受講者各自が事前に配布した発表資料を使用して、授業をすすめる。

8. 授業時間外学習：

発表者は、入念な準備作業のもと、発表予定の内容について十分に構想を練ったうえで、配付資料を丁寧に作成し、遅くとも発表の 1 週間前にはそれを配付する。ほかの参加者は、事前に配付された資料を良く読み、予習を周到におこなう。

9. その他：なし

特になし。

科目名：中国思想史総合演習Ⅱ／ History of Chinese Thought(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：三浦 秀一、齋藤 智寛（教授、准教授）

講義コード：LM25501， 科目ナンバリング：LGH-PHI614J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 中国思想中国哲学研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：

中国思想研究上の諸問題 2

2. Course Title (授業題目)：

Major Issues in the Research of Chinese Philosophy 2

3. 授業の目的と概要：

前期での発表や討議にもとづいて、受講者各自が、それぞれの研究テーマにもとづく論文の草稿を作成して発表するとともに、受講者全員が、その発表にもとづいて自由に討論する。

4. 学習の到達目標：

みずからの研究テーマに関連する学術論文を作成するうえで必要な基礎的技術および能力を向上させることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：発表と討議（1）

第3回：発表と討議（2）

第4回：発表と討議（3）

第5回：発表と討議（4）

第6回：発表と討議（5）

第7回：発表と討議（6）

第8回：中間まとめ

第9回：発表と討議（7）

第10回：発表と討議（8）

第11回：発表と討議（9）

第12回：発表と討議（10）

第13回：発表と討議（11）

第14回：発表と討議（12）

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

発表内容（50%）、参加態度（50%）

7. 教科書および参考書：

教科書はとくにない。受講者各自が事前に配布した発表資料を使用して、授業をすすめる。

8. 授業時間外学習：

発表者は、入念な準備作業のもと、発表予定の内容について十分に構想を練ったうえで、配付資料を丁寧に作成し、遅くとも発表の1週間前にはそれを配付する。ほかの参加者は、事前に配付された資料を良く読み、予習を周到におこなう。

9. その他：なし

特になし。

科目名：中国思想文献研究演習 I / Literature on Chinese Thought (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：三浦 秀一（教授）

講義コード：LM23203， 科目ナンバリング：LGH-PHI615J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 中国思想中国哲学研究演習 I 】

1. 授業題目：

『延平答問』精読

2. Course Title (授業題目)：

Critical Reading of "Yanping Dawen"

3. 授業の目的と概要：

中国近世を代表する思想家・朱熹（朱子、1130-1200）が三十代半ばに編纂した『延平答問』（正編）を精読することによって、当時の朱熹がその師匠である李延平（諱侗、延平はその号、1093-1163）からどのような思想を吸収し、みずからの思想を形成していたのかという問題の解明をこころみる。授業は演習形式でおこない、担当者は、『延平答問』が収める朱熹と李侗とによる往復書簡をわかりやすい言葉で和訳することはもとより、書簡が引く『論語』や『孟子』などの古典や北宋諸儒の語録などに関して原典にもとづいた注釈を丁寧にはどこすとともに、関連する朱熹の文章などの紹介をもおこなう。

4. 学習の到達目標：

壮年期における朱熹の思想について、原典に即した理解を得るとともに、その定論との比較ができる。
宋代における道学系文献の読解方法に習熟する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンスとテキストの紹介

第2回：『延平答問』訳注発表（1）

第3回：同討論

第4回：『延平答問』訳注発表（2）

第5回：同討論

第6回：『延平答問』訳注発表（3）

第7回：同討論

第8回：『延平答問』訳注発表（4）

第9回：同討論

第10回：『延平答問』訳注発表（5）

第11回：同討論

第12回：『延平答問』訳注発表（6）

第13回：同討論

第14回：『延平答問』訳注発表（7）

第15回：同討論

6. 成績評価方法：

発表（60%）、受講態度（40%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考書・参考文献に関しては、第1回の授業時に紹介する。

8. 授業時間外学習：

担当者は、発表の準備を入念におこなう。担当者以外の受講者も、担当者と同等もしくはそれ以上に、読解のための予習をおこなう。また、発表時に配布されたレジュメ等に関しては、それを改めて読み直し、次回以降の授業に活用する。

9. その他：なし

特になし。

科目名：中国思想文献研究演習Ⅱ／ Literature on Chinese Thought(Advanced Seminar)II

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛（准教授）

講義コード：LM13204， 科目ナンバリング：LGH-PHI616J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 中国思想中国哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

『申鑑』精読

2. Course Title (授業題目)：

Reading and research in the Shen jian

3. 授業の目的と概要：

後漢・荀悦の『申鑑』を読む。主張の論拠や批判対象を調査した上で文献の論旨を理解し、訳注を作成する能力を涵養するのが目的である。

4. 学習の到達目標：

思想文献の論旨を理解し、精確な訳注を作成することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 『申鑑』会読
3. 『申鑑』会読
4. 『申鑑』会読
5. 『申鑑』会読
6. 『申鑑』会読
7. 『申鑑』会読
8. 『申鑑』会読
9. 『申鑑』会読
10. 『申鑑』会読
11. 『申鑑』会読
12. 『申鑑』会読
13. 『申鑑』会読
14. 『申鑑』会読
15. 『申鑑』会読

6. 成績評価方法：

発表と討論での発言状況（100%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

予習のほか、未解決箇所は授業後に調べて次回の討論に備えること。

9. その他：なし